

▶教育・研究プログラム▶研究開発コロキウム（2009年度）

野殿・童仙房地域における生活の中の伝統行事のフィールドワーク — 神社祭祀とその継承を中心として —

1. 研究の目的

野殿・童仙房地域は、南山城村（京都府南端）北部の童仙房高原上に隣接する二つの農業集落で、2006年に締結された同地域と本学教育学研究科との相互協定に基づき「野殿童仙房生涯学習推進委員会」が発足し、地域住民と学生・院生との交流が、教育実践コラボレーション・センターおよび生涯教育学講座を中心として活発に行われている。

本研究はこの相互交流を基盤として、野殿・童仙房地域における伝統行事と住民生活との関係性を、神社祭祀とその継承が地域の暮らしとどのように結びついて行われているのかに焦点を当て、地域住民からの聞き取りを中心としたフィールドワークを通して明らかにすることを目的としている。

2. 研究チームの構成

研究代表者：辻 喜代司（D1）

研究分担者：崔 善今（D1）

鏑 純香（M1）

岡田 薪子（M2）

研究協力者：山口 記世（B4）

3. 研究活動の概要

本コロキウム研究は、野殿・童仙房地域におけるフィールドワークを最大の特徴としているが、その導入時期においては、チーム研究としての枠組みづくりをめざして、専門分野にこだわらない文献講読、地域資料の収集を中心にして、ディスカッションを加味しながら、対象地域を総合的に理解するための学習活動を行った。

その後、『南山城村史』を中心とした歴史学、民俗学における先行研究の検討時期を設定して、研究チームの構成メンバーが、統一テーマに基づくサブテーマを仮決定するとともに、対象地域での聞き取り調査を中心としたフィールドワークを実施するための方法論についての共通理解を深めた。この間、対象地域の区役員のみなさんと研究チームの院生との顔合わせを兼ねた交流会を開催し、地域研究の可能性と課題について意見交換を行った。

こうした準備期間を経て、7月後半からフィールドワークを開始したが、生活との結びつきを体感するために、地元の社寺祭祀を中心とした地域の主だった伝統行事に参加する中で、住民からの聞き取り調査を行った。

以下にその具体的な内容を紹介する。

①野殿区でのフィールドワーク

区の氏神を祀る六所神社関係では、7月19日の「餅放り」行事（写真）と10月25日の秋大祭に参加した。両祭祀では、野殿区で継承されてきた米やモチを核とする独自の食文化とのつながりが観察されるとともに、高齢化にともなう継承上の問題点にも気づかされた。

真言宗寺院として近世以来の伝統をもつ福常寺関係では、7月26日の「虫送り」行事に参加して、農耕儀礼が区の行事として継承されている様子取材した。



▶ふんだんに餅が撒かれる「餅放り」の様子

②童仙房区でのフィールドワーク

コラボレーション・センターが主催する交流イベントにも積極的に関わりながら、コロキウムとしての独自の研究活動も行った。10月17日には区の氏神を祀る童仙房大神宮社の秋大祭に参加し、神輿巡行に同行することで、明治の開拓村で創始された祭りの特色を探った（写真）。

区の夏祭り（8月14日）にも参加して、生活の中の祭りの様相を見学した。また、区内にある高麗寺および総神寺でも取材を行った。



▶小中学生による樽神輿の巡行

（文責：辻 喜代司）